

朝鮮・日本軍「慰安婦」および 強制連行被害者問題対策委員会 委員長の報告

2010年8月12日 平壤 人民文化宮殿において

洪善玉（ホンソンオク）委員長

かつて、日本帝国主義の強制連行、強制労働蛮行により人間の尊厳と青春を蹂躪され、身体と心に大きな傷を負った被害者と犠牲者遺族のみなさん、両親に連れ立って生きる道を求めて日本に渡った罪ならぬ罪で放射能の被害を被った被爆者のみなさん。

本日、我々は朝鮮を不法占領し、わが人民に植民地奴隷の運命を強要した日本帝国主義の敗北65年、強盗さながらの「韓日合併条約」捏造100年を迎えてこの場に集り、日本帝国主義の反人倫犯罪被害者の証言の集いを開きます。

わたしは、まず、猛暑の折に体調が悪いのにも関わらずこの場に臨席して下さった被害者と遺族のみなさんに深い謝意を表します。

被害者のみなさんが10代、20代の若さで日本帝国主義に連行され、人間以下の虐待と侮辱を受けながらあらゆる苦痛と犠牲を強要されなければならなかった時代から半世紀以上が過ぎました。

しかし、いくら歳月が流れても忘れることができず、また癒されもしないのは日本帝国主義がわが民族に残した罪惡の傷です。

癒されない傷は日経つにつれて益々激痛を起こしながら被害者の心身を悩まし、病弱なかれらの生命を脅かしています。

胸の中の恨みを晴らすことができなかった被害者は一生癒されない傷を残した日本、罪惡の責任はおろか、顔さえ赤らめない日本を呪いながら代を継いででも自分たちの恨みを晴らしてくれることを切実に訴えております。

これは単なる被害者の権利に対する訴えではありません。

これは人間の尊嚴と権利への蹂躪を永遠に終息させることを求める被害者の絶叫であり、世界の平和と和睦を願う体験者の願いであります。

にもかかわらず、日本政府は日本帝国主義が敗北して65年になる今日まで被害者の要求を冷淡に拒否し黙殺してきただけでなく、かえって血みどろの歴史、犯罪の事実を隠蔽し美化・粉飾してきました。

このような事実は明白に過去の犯罪を再度、繰り返そうとする魂胆の表れであります。

人類の平和と国際社会の安定のためにも犯罪の責任を回避しようとする日本のいかなる試みも絶対許してはいけません。

過去、日本が朝鮮人民に及ぼした数々の反人倫犯罪行為と人的、物質的、精神的略奪と抹殺行為はいかに長い歳月が流れ世代が幾代も変わるとしても許しえない罪惡であります。

今から100余年前、「乙巳5条約」や「韓日合併条約」をはじめとする条約ならぬ「条約」を捏造して朝鮮の主権を強奪した日本帝国主義者は40年余りもわが民族に植民地奴隷の運命を強いた朝鮮人民の不倶戴天の敵であります。

朝鮮に対する植民地支配政策の根幹を民族抹殺に据えた日本帝国主義は、まず、朝鮮民族を人的に抹殺するために100余万人を虐殺し840万余人の朝鮮人を日本と中国、東南アジアなど自分らの侵略戦場や奴隷労働の場所に連行して虐待し侮辱しただけでなく、20万にのぼる朝鮮の女性を「皇軍」の性奴隷に連れて行き輪姦して出産能力を破壊し集団的に虐殺しました。

朝鮮人民に対する日本帝国主義の殺戮蛮行は方法においても残忍さを極めました。1923年9月1日の関東大震災時に日本で行われた朝鮮人虐殺蛮行についてある日本人は「…空き地にはほとんど裸同然の朝鮮人の死体がずらり並んでいた。死体の数は250であった。一人一人見つめると喉が斬られて気管支と食道の頸動脈が露わになっている死体もいた。首が斬られた死体もいたが首を無理にひねられたのか肉と皮膚、腱がもつれ合っていた。…若い女性の死体もいた。腹部は切り裂かれていて6～7ヶ月くらいになると見られる胎児が腸の中に放り出されていた。女性の陰部には竹槍が深く刺し込まれてあった。…私が日本人としての恥をこの時のように強く覚えたのは初めてであった。」（『現代史資料』6 関東大震災と朝鮮人）と証言しました。

数ヶ月で7500人を殺した1919年の3.1人民蜂起鎮圧事件、都

合7万人の朝鮮人を虐殺した1920年代と1930年代の「間島大討伐」、朝鮮人であるということだけで24000人を殺した1923年の関東大震災時の殺戮蛮行、解放された祖国に帰ろうとした7000～8000人余りの朝鮮人を故意的な破壊行為で海に沈めた1945年8月の「浮島丸」爆破事件…。

日本帝国主義の朝鮮占領史に記録された彼の虐殺蛮行は日本帝国主義こそ殺戮を道楽に、趣味にする極悪非道の野獣であることを実証しています。

忘れてはならないのは、日本帝国主義の朝鮮人強制連行犯罪、朝鮮女性に対する性奴隷犯罪の究極の目的がほかでもなく朝鮮民族抹殺であったことです。

日本帝国主義は「国民徴用令」、「国家総動員法」、「女子挺身隊勤労令」をはじめとする悪法を振りかざし、罪のない朝鮮人を戦場や軍事基地、炭鉱、鉱山、工場や農場など自分らの侵略戦争遂行に必要なあらゆる所に連行しては苦役と飢餓、虐待、殴打の連続である地獄暮らしを強要して多くの人々の命を奪い、障害者に、廃人にしました。

資料によりますと1939年から1945年までに日本に連行された朝鮮人の数は168万6597人にのぼり、1938年から1945年までに朝鮮の域内で徴用された人は609万2319人に達します。

日本帝国主義は日本軍「慰安婦」制度も日本軍の性的需要を満たすための手段だけではなく朝鮮民族の増加を抑制し、進んでは民族を絶滅させる最高の方法とみなしていました。

ゆえに日本帝国主義は植民地となった朝鮮を「慰安婦」の補

給地に、朝鮮の女性を日本軍「慰安婦」のもっとも重要な源泉と捉えて数々の悪法を発動したのは言うまでもなく、狩り同然の手口で多くの朝鮮の女性を手当たり次第に連行しただけではなく、彼女らを日本や中国、インドネシア、ミャンマー、シンガポール、サハリン、モンゴル、カンボジア、フィリピン、パプアニューギニア、サイパン、グァムなどの太平洋上の小さな島々にまでばら撒き過酷な性的虐待と虐殺蛮行をはたらきました。

日本帝国主義は「慰安婦」を2平方メートル足らずの狭い部屋に一人ずつ監禁しては、毎日、30～40人の日本兵を相手にさせましたし、「慰安婦」がいささかでも言うことを聞かなかったり逆らうと残忍に虐殺しました。

日本帝国主義は数多くの朝鮮の女性を性的に収奪しては敗戦を前にして集団的に虐殺しましたが、南洋の島で朝鮮人「慰安婦」数十人を皆殺しした事件、中国の雲南省で防空壕にいた朝鮮人「慰安婦」を手榴弾で殺した事件、上海駐屯日本軍6師団で敗戦20日前に約150人の「慰安婦」を一行に整列させて順番に首を切り落として殺した事件など枚挙に暇がありません。

実に、日本帝国主義が朝鮮人民を相手に行った殺戮行為により朝鮮の山河は勿論のこと、日本侵略軍の軍靴が届いたアジア大陸と太平洋の島々に至るまで朝鮮民族の血が染み込んでいない所はありません。

日本帝国主義の朝鮮民族抹殺策動は人的側面のみならず精神的側面においても徹底的に行われました。

日本帝国主義はわが人民の民族意識を抹殺するために「同祖

同根」、「内鮮一体」の欺瞞的なスローガンの下、1935年までに朝鮮半島の314箇所に神社を建てて参拝を強要しましたし、いわゆる日本民族の祖神といわれる天照大神を祭る神棚を作らせて朝夕の参拝を強制しました。

すべての学校と公共機関で、毎朝、「皇国臣民の誓詞」を日本語で暗唱させ「皇国臣民体操」なるものまで作り出しましたし、1911年には日本語を国語に公布して朝鮮語教育を極力制限し、1940年代初旬からは学校教育から朝鮮語の科目を完全になくしました。

のみならず朝鮮民族のシンボルである白衣の着用を禁止して女性はチマ・チョゴリのかわりにもんぺを着るように強要し、お弁当もご飯の真ん中に梅干を入れて食事の時にも日の丸を思い浮かべろと強いるなどあいさつや髪型、歩き方、座り方などの生活習慣と礼儀作法に至るまでの生活の細部までも徹底的に日本式にするように強要しました。

日本帝国主義は1939年11月、「総督府訓令」第19号でもって朝鮮人の名字と名前を日本式に替える「創氏改名」を法制化し、1940年2月からは大々的に強要して応じない人は投獄しました。

この他にもわが民族の悠久な歴史を抹殺するために統監統治の期間だけでもおよそ2000基の古墳を破壊・略奪し、1800冊になる李朝実録をはじめ1910年11月から初回分として20余万冊の古典を略奪し焼却するなど日本帝国主義が朝鮮民族の魂を奪い去るために犯した罪業は形態や手法、規模において想像を絶するものであります。

振り返れば、人類の歴史には数多くの帝国主義勢力が存在しましたが日本帝国主義のように一つの民族の人的資源、経済、文化、歴史というまでもなく人々の名前と言語、服装をはじめとする生活のあらゆる面から民族的なものを抹殺するために膨大な計画を立てて徹底に締め付けた例はありませんでした。

問題は、許せない反人倫犯罪を犯した日本が65年が過ぎるまでわが人民にいまだにきちんとした謝罪と賠償を行っておらず、かえって自分らの犯罪行為を弁解し歪曲しながら美化・粉飾したあげくには公然と賛美していることです。

日本当局は自国の歴史教科書に日本軍「慰安婦」犯罪をはじめ過去の侵略歴史についていくらか記述されていたのさえもすべて削除するようにし、侵略戦争と植民地支配を賛美する破廉恥な行為をはたらいています。

かと思えば、歴代首相をはじめとする政府の官僚と高位政治家が靖国神社を参拝して軍国主義の亡霊を公然と慰労し、歴史と世界に朝鮮の領土として公認されている独島を日本領であると強弁を張っています。

憤激せざるをえないのは、過去、多くの朝鮮人を連行して犠牲にした日本が犠牲者の遺骨さえもやたらに放置し、かつてに処分していることであります。

今、日本の寺院には身元が確認されていない数千人分の朝鮮人強制連行犠牲者の遺骨が保管されています。

しかし、遺骨が誰のものであるが判別できないように骨壺に数人分の遺骨が入り混じっていたり、甚だしくは遺骨の代わり

に汚物などが入っている有様です。

おまけに、日本当局は遺骨を保管する場所が制約されているのだ、訪れる人がいないだのとうんぬんしながら1999年には愛知県名古屋市内の遺骨保管所にあった朝鮮人の遺骨をかつてに粉砕処分しましたし、2004年には60余年ぶりに父親の遺骨の在り処を突き止めた遺族が確認のために申請した日本入国を、禁止する非人道的な行為もためらいなく行いました。

加害国として犠牲になった親の遺骨を取り戻そうとする被害国の遺族の入国を遮断する横暴をはたらく国は、古今東西に日本のみであります。

このような日本の人権侵害行為は決して遺骨問題に限ったことではありません。

日本は1945年8月、広島と長崎で被爆した共和国の公民の問題にも頑なに顔を背けています。

実をいえば、わが国の被爆者問題は、過去、日本帝国主義の強制連行犯罪により日本に連れて行かれたり、朝鮮に対する植民地暴圧政策に耐えかねて生きる道を求めて日本に渡った人々が被爆して産生したものであります。

したがって、日本政府は当然、植民地統治の圧迫により日本に渡って行って無念にも被爆した人々に謝罪し適切な医療上の手当と支援をすべき法的、道義的責任を負っています。

にもかかわらず、日本政府は自国の被爆者に対しては10年おきに実態調査を行って健康手当金と医療援助を提供しながら、共和国の被爆者については国交がないというたった一つの理由

で実態さえ調査していない状態であります。

今、わが国の被爆者はほとんどが原因不明の下痢、嘔吐、食欲不振、頭痛、出血、発熱などの症状に悩まされており白内障、白血病、貧血、癌のような疾病を患っているし普通の人よりもずっと早く死亡しています。

現実には、日本が朝鮮人民に犯した反人倫犯罪とそれによる被害が、決して65年前に終わったのではなく今日までも続いており二重三重の新たな被害を生んでいるということを明白に示しています。

要は、わが国に対する日本の執拗な過去の清算回避策動が反共和国、敵視政策に深く根を下ろしているということです。

日本は、敗戦後65年間、アメリカの対朝鮮分断政策に便乗して反共和国、敵視政策を追求しながら漁夫の利を目論んで朝鮮の統一を悪辣に妨害し、わが国に対する「制裁」だの、なんだのをうんぬんしながらわが国と人民に損害だけを及ぼしましたし、共和国の堂々たる海外公民団体である総連と在日朝鮮人を政治的に弾圧し迫害しました。

これは共和国の尊厳と自主権に対する重大な侵害行為であり歴史と正義に対する破廉恥な挑戦であり人倫と道義への乱暴な蹂躪であります。

今日、日本が加害国としての罪意識もなく自分を正当化しながらあつかましく振舞っているのは、犯した罪に対する徹底した処罰を受けなかったことに重要な原因のひとつがあると思います。

実際日本は、戦後、アメリカの庇護の下、殺人鬼として当然処分されなければならなかった戦犯を首相に押し立てたかといえ、侵略戦争の被害を被ったアジア諸国への戦後処理も形式的にうやむやにしました。

罰されなかった犯罪は、いつかはまた犯罪による弊害を正当化し弁護するのが常でありますし新たな犯罪を生むものです。

日本が過去の犯罪行為に対して被害者が納得し国際社会が受け入れられるように誠実かつきれいに過去を清算するのはかならず経なければならない歴史的過程であり、新たな犯罪を防止するための必須の要求であります。

過去の反人倫犯罪を自ら究明し歴史的債務を清算するのは、今日、国際社会の主な流れとなっています。

日本と同じく第2次世界大戦の敗戦国であるドイツは2007年6月まで世界の100余カ国のナチス強制労働被害者167万余人に賠償金を支払って数十年間にわたる戦後賠償を終結したのに次いで今年中に未決の第1次世界大戦の被害者に対する賠償金の支払いを完了すると公表することによって不幸な過去と完全に決別しようとする自国の意志を明白に示しました。

のみならず、スイス、フランス、カナダ政府も第2次世界大戦時の自国の罪悪に対する歴史的責任を自ら認めて誠意ある補償を終えたり行っているところです。

唯一、日本のみが野蛮かつ膨大な罪悪をふてぶてしく美化・粉飾しながら法的責任を逃れるためにあらゆる手を使っています。

今日、日本の反人倫犯罪被害者のほとんどが高齢になり被害の影響により健康状態が悪化して死亡者が増えている現状からして日本が一日も早く過去の清算を行うのはもはや後回しにできない差し迫った問題として提起されています。

間もなく日本の敗戦65年、「韓日合併条約」捏造100年になります。

日本が朝鮮を軍事的に占領してから今日いたる100年間、計り知れない苦痛と損失、被害を被ったわが民族は、またもや1世紀がすぎるとしても苦痛の歴史を絶対忘れないでしろうし、世代が幾代も代わるとしても被害の代価をかならず支払わせるでしろう。

日本当局は過去の清算に対するわが被害者と人民の意志を見極めて時代錯誤的な過去の清算回避策動と反共和国敵視政策を即刻取りやめ、過去の清算に対する自らの責任と義務を徹底的に履行すべきであります。

我々は、ご臨席されたみなさんが受難の歴史、被害者の苦痛を忘れず、日本の過去の清算を求める運動に一層積極的に立ち上がるようにと、国際社会が日本の過去の清算回避策動と歴史歪曲策動に警戒を強め阻止させ日本の過去の清算責任履行を促す声をより高めていくようにと熱烈に訴える次第であります。

加藤和徳 訳 朴井愚 監修